

3. エクステンションセンター

エクステンションセンターは、平成 13(2001)年、時代の変化、社会の要請に応えるべく、大学「教育」の拡張および大学の教育と研究の成果を広く社会に「開放」することを目的として開設された。以来、教育と研究を補完しかつ開放する対学内サービスと対学外サービスを担っている。

エクステンションセンターは、設置目的である、大学教育の拡張としての「教育サービスの提供による学部教育の補完・補強」と「大学教育、研究の社会への開放、公開」をそれぞれ正課外講座（エクステンション講座）と公開講座（福岡大学市民カレッジ）を軸として、人材育成事業、大学開放推進事業、市民連携事業、高大連携事業、産学官連携事業として具体化している。

対学内サービスである学部教育の補完・補強としての正課外教育は、進路選択や就職対策を支援する教育サービス、学部教育を実用的、技術的に拡張する教育、学習意欲の喚起、学習や人生への動機づけを強化するための教育を軸に、学生それぞれの価値や個性に応じた成長をサポートしている。

対学外サービス、大学の教育と研究の「開放」として、本学の人的物的資源を活用した各種公開講座（福岡大学市民カレッジ）を、幼児から高齢者まで幅広い市民層へ生涯学習機会として提供し、市民生活を豊かにする支援を積極的に行っている。また、学部教育をもとにした社会人教育プログラムの提供、高校への教育支援、地域との連携などを通じて、地域で大学の知を使いこなせる人材を育成し、その人たちを通じて地域力を高めることにも取り組んでいる。

（1）学生に対する教育サービス：学部教育の補完・補強教育（学生に対する正課外教育）

【現状の説明】

平成 13(2001)年にエクステンションセンターを開設し、それまで就職部で行っていた正課外教育プログラムを移管した。以来、正課外教育プログラムを拡充し、税理士など難関試験、公務員、教員採用試験へ挑戦する在学生の受験対策支援講座を始めとして、学生それぞれが進路を切り開くための資格取得やスキルアップのための多彩なプログラム(エクステンション講座)を提供している。社会人として必要なスキルを取得できる講座（簿記講座、コンピュータスキル：MOS 講座、英語力養成：TOEIC 講座など）を中心に展開し、平成 18 年度は 87 講座を開講し、3,566 人が受講した。

講座の企画に当たっては、学部教育とリンクできるもの、大学生が取得する資格として適切な講座に絞り、本学学生に合わせたカリキュラムを組むなどの工夫をしている。また、安易な申し込み、受講にならないよう、事前ガイダンスを行い、講座によっては模擬授業や実際に試験問題を解かせてみるなど資格や講座への理解を深められるようにしている。さらに、学習意欲の喚起、学習や人生への動機づけを強化するための教育も取り入れ、学習効果をあげるための努力をしている。

これら各種試験対策、資格取得のための正課外教育に加えて学部教育の発展学習として新たな取り組みも始めている。正課授業では実現しにくい規模、形態の教育プログラムを提供し、正課授業に加えて、職業人として自立できる契機を提供している。平成 17 年度からは、企業でも商品開発、企画などに取り入れられているワークショップ形式で、問題発見、企画から制作、提案までの過程を実践的に体験する講座、共創型ワークショップを開講している。

後述する市民への教育サービス、福岡大学市民カレッジ（公開講座）のキッズ・スポーツプログラムにおいては、学生が講師の補助として指導経験をつめるようにしている。

IV. 教育研究施設・付置研究所 エクステンションセンター

◆エクステンション講座開講状況

	講座数	受講者数（人）
平成 16 年度	91	4,785
平成 17 年度	76	4,095
平成 18 年度	87	3,566
計	254	12,446

【点検・評価】

上記すべての講座において、センタースタッフによる講師および授業チェックを行い、同時に受講者に対しては授業アンケート調査を実施し、常に講座の質と受講者の満足度が向上する努力を行っている。その結果、どの講座も受講者の満足度は高く、一部難関試験を除いて、全国平均を上回る合格率を上げている。学生の目標達成、進路支援に大きな役割を果たしてきているといえる。当センターには専用教室がなく、施設設備面での制約があるために、近年社会人として当然必要とされるコンピュータスキル：MOS 講座を始めとして、受講希望者すべてを受け入れることができない講座がある。

社会での認知度が高く、実用性も高い講座には毎年一定数の受講者を確保できているが、就職状況の好転など社会状況の変化に呼応する形で、受講希望者が集まりにくくなってきている。特に難関試験対策講座は開講できないものもある。

また、受講期間が長い公務員採用試験対策講座においては、企業との併願が前提であったり、進路変更により中途放棄するなど所期の目的を達成できない学生が多く見受けられた。これに対し、平成 18 年度から、自己分析、職業観育成、キャリアデザインなど「何のために、どう学び、将来どう役立てるか」を考える場として「エンカレッジセミナー：《未来ノート》でなりたい自分になる！」を開講し、学習の動機づけを強化した。その結果、当該講座の出席率は向上し、合格者も増加している。

正課授業では実現しにくい規模、形態の教育プログラムをワークショップ形式の共創型学習プログラムとしても提供している。平成 17 年度から開講している共創型学習プログラムでは、実際に企業から問題提起を受けて、企画制作を体験的に行うことにより、現在、企業や地域社会が求める能力、観察力、創造力、コミュニケーション力の向上を図ることができている。同時に、職業に対するイメージをより具体的にし、かつインターンシップにも匹敵する学習効果を上げている。

キッズ・スポーツプログラム、特に福岡大学市民カレッジ「キッズ・サッカークラブ」においては、講師補助者としてサポートしている学生が指導案をもとにその指導にあたり、指導後反省会を開くなど実体験を通じて大きな教育的効果が得られている。さらにこの指導経験をもとに、指導者養成講座で資格を取得するといった一貫した取り組みとなっている。

【改革・改善策】

学部教育の補完・補強教育である正課外教育プログラムを展開していくに当たっては、在学生のニーズをくみ取り、社会状況を勘案しながら、正課教育との相乗効果を上げるべくさまざまな施策をとってきた。その結果として、各種資格取得試験においては多くの合格者を輩出し、職業人として自立した社会人となる契機を提供することができた。今後もこの態勢を堅持し、在学生の進路支援については大学の評価を高めるべく、さらに、学部との連携を強化し、正課外教育プログラムを充実させていく取り組みを行う。

IV. 教育研究施設・付置研究所 エクステンションセンター

反面、難関試験といわれる公認会計士試験、税理士試験、国家公務員Ⅰ種試験などに挑戦する学生が減少してきている。プロフェッショナル人材の育成に向けて、各学部や就職・進路支援センターと連携し、志願者増につながる取り組みをする必要がある。

学習の動機づけを強化するエンカレッジセミナーを開講してみると、講座を充実させることはもちろんのことであるが、「何のために、どう学び、将来どう役立てるのか」という学習、受講の目的をはっきりさせることが成果への近道であることを再認識した。現在、公務員採用試験対策講座受講希望者を中心に行っているエンカレッジセミナーを、当センター開講講座受講希望者にまで対象を広げ、学習の動機づけを強化し、今以上の学習効果を上げていきたい。

また、今後施設設備面では専用教室の整備や新たな形態の授業を行える設備の改善、充実を検討する。

(2) 市民への教育サービス：大学の教育と研究の「開放」

【現状の説明】

平成 13(2001)年エクステンションセンターを開設し、昭和 63 年度から総合研究所において行われてきた公開講座を移管した。移管に伴って、市民への教育サービスを、より積極的に大学を開放し、地域での知の循環機能を担い、地域の方たちが生涯現役でいるためのサポート事業（人材育成事業、大学開放推進事業、市民連携事業、高大連携事業、産学官連携事業など）として位置づけた。センター開設以来平成 18 年度までに 230 講座を開講し、実数 8,807 人延べ 46,417 人が受講した。

（公開講座（福岡大学市民カレッジ）開講状況は「社会貢献」の項（1）地域社会との連携④公開講座を参照）

①人材育成事業：社会人再教育・継続教育支援事業

学部教育の財務会計講座を体系的教育プログラムとして提供する会計学講座を始めとして、薬学部卒業後教育講座など再教育のための講座と主にスポーツ指導者養成を目的とする講座として具体化を図っている。

②人材育成事業：高校生およびその保護者対象のキャリア形成支援

平成 16 年度から、就職、進学など進路決定期の子どもを持つ保護者を対象に「我が子と考えるキャリア形成」を開講している。平成 18 年度は在学生向けのエンカレッジセミナーを材料に実践的な内容を盛り込んだ。

③市民連携事業：スポーツプログラム

エクステンションセンター開設以来、キッズ・スポーツプログラムを始めとするスポーツ講座を開講している。平成 18 年度は 10 講座を開講した。中には定員を超える申込みがある種目も出てきており、地域で相応の位置を占めるまでになった。また、(1) で述べたとおり、学生がこのキッズ・スポーツプログラムで指導者経験を積み、指導者養成講座で資格を取得するといったよい循環と連携ができています。

④高大連携事業：高校への教育支援

エクステンションセンターでは、高校の正課および正課外教育への支援、教育プログラムの提供を行っている。その詳細については、「Ⅱ. 大学 社会貢献」の項（1）地域社会との連携⑦高大連携、高校への教育支援を参照。

IV. 教育研究施設・付置研究所 エクステンションセンター

⑤市民連携事業：まちづくりなど地域との連携事業

エクステンションセンターでは、地元企業や団体との連携も積極的に行っている。その詳細は「社会貢献」の項(1)地域社会との連携③地元企業、団体との連携を参照。

⑥大学開放推進事業

大学の知的資源の開放と生涯学習機会の提供を目的として、語学、異文化学講座を始めとする「福岡大学市民カレッジ」を開講している。平成14年には、近々に迎える高齢社会に学際的にアプローチし、そのヒントを探る講座「サクセスフル・エイジングー高齢社会を楽しく！健やかに！生きるー」を開講した。この講座は、「高齢社会」を統一テーマとして、本学9学部全てからそれぞれの研究やその成果をもとに具体的な論考計24講の講座として構成した。

平成18年度は、創設20周年を迎えた人文学部日本語日本文学科と歴史学科それぞれの記念事業として、記念講座を開講した。歴史学科の記念講座は延べ500人を越える受講者を迎え好評のうちに終了することができた。また、工学部機械工学科の協力を得て、小中学生を対象とした講座「ヒューマノイド・ロボットを作ってみよう！」を初めて開講するなど、学部学科との連携を図りながら事業を進めることができた。

【点検・評価】

多様な事業を展開しているが、提供する分野が限られていることもあり、体系的教育カリキュラムを構築するに至っていない。

多様な事業を講座（福岡大学市民カレッジ）として具体化するに当たっては、研究成果の還元のみとしてではなく、教育プログラムを提供することを意識した企画も行っている。ともすれば講座を提供する側だけの視点になってしまいがちであるが、当センターでは、センタースタッフが教員の教育、研究テーマから市民向けにテーマを切り出し、講座構成を行い、受講者のニーズをくみ取りかつ本学の人的物的資源を有効に活用することに腐心している。

運営に当たっては、センタースタッフによる講座チェックと授業アンケートを行い、常に講座の質と受講者の満足度が向上する努力をしている。結果として、講座受講者の満足度、評価ともに高い。一方で受講者のバックボーンや学習レベルなどに大きな差があり、中には維持運営が難しい講座もある。特に語学講座では、学習レベルの差、リピーターの問題、講師との関係、チュートリアルを望む受講者とのミスマッチなど問題も多い。

本学専任教員が市民への教育サービス、公開講座を通じて多様な社会、市民と関わることで、理論と実学との効果的な連結が図れ、学部教育にその成果を還元することができているものもある。一方、担当する教員の負担が大きくなることと公開講座を担当することによる評価が定まっていないことなどから、講座の担当を依頼することが困難になっている。「大学の教育と研究の成果を広く社会に開放する」という理念と実態に齟齬が生じている。

エクステンションセンターは本学で開講される公開講座のほとんどを担っているが、そのすべてが当センターに集約されたわけではなく、情報を一元的に市民に提供することができていない。また、専用教室もなく、施設設備面での制約があるために、現状より講座数を増やすことや新たな形態の講座などを実施することができない。

【改革・改善策】

価値、ニーズが多様化する社会において、生涯学習の意義は大きく、大学に求められる役割も重要になってくるが、教養レベルから専門的再教育レベルまで多種多様なニーズが存在し、その学習

形態も正規の学生として体系的に学習するものから自分の求めるものをピンポイントで学習するものまで多様である。これらの生涯学習ニーズに応え、本学の人的物的資源を最大限に活用して、新たな学習プログラムを開発することはますます難しくなっていく。それに対応するためにも、スタッフの専門性を高めること、学内資源の掘り起こしやコミュニケーション能力に優れた教員の発掘、育成にも取り組む。

さらに、理念に即しより充実した教育サービスを市民に提供していくためには、将来的にプログラムの洗練、施設設備の改善による学習環境の整備、また、担当教員に対する負担軽減措置や評価について検討する。

(3) 特色ある教育事業：共創型学習プログラムの開発と共創型学習プログラム運営のための ティーチング能力向上プログラムの開発

【現状の説明】

平成 18(2006)年度より福岡大学「特色ある教育」として研究事業「共創型講座のためのティーチング能力向上プログラムの開発」を行っている。これは、大学のユニバーサル化に伴った学力の低下問題、学習の動機づけの問題などへ対処する新たな学習方法、教育方法を模索するものである。

本事業では、①参加者の「コミュニケーション」をベースにしたワークショップ形式の共創型学習プログラムを提供し、社会人として必要なコミュニケーション能力を引き出し、文脈力を養成すること②その学習プログラムを運営する際に用いるファシリテーションなどのコミュニケーションスキルや講座の場づくりのしかた、受講者同士の討議を活発に進め、気づきを生む助言や支援する能力などを教育現場で活用できるよう研究し、教員のティーチング能力を向上させることを目指している。

現在、共創型学習プログラムとティーチング能力を向上するための方策を具体化するために、学生および社会人に対して試行的プログラムを提供している。教員に対しては、講義やゼミで学生の能力を引き出すために実施している工夫など授業方法に関する情報を整理提供し、コミュニケーションスキルの研修や外部講師の講座体験など共創型教育に資する講座を実施した。

【点検・評価】

(1) の項で述べたとおり、共創型学習プログラムは試行的に提供しているものではあるが、学習共同体における相乗効果によって、観察力、創造力、コミュニケーション力の向上など学習効果がより高められることを再確認した。また、共同学習を通じて受講者が自発的な活動に至るプロセスについての情報を蓄積することができた。さらに、特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会九州支部と連携を図ることで、この研究にも広がりが出てきた。

新たな授業形態をとっているため、現在の大学の施設設備では対応できないこともある。また、試行的プログラムであるため、担当できる講師も限られている。

【改革・改善策】

まず、試行プログラムから新たな授業形態、教育プログラムとして熟成させること、多人数講義でも活用できるスキル、プログラムとして整理し、提示することが喫緊の課題である。これを実現するためにも、今後コミュニケーションスキルに優れた講師の養成と施設設備の整備を検討する。